

C. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策**①FD体制の整備充実****●九州大学 システム情報科学府電気電子工学専攻****「5つの力をもつシンセシス型博士人材の育成」の事例 <理工農系>****具体的に何を実施し、何が困難であったのか**

プログラム実施期間中には、5つの力を客観的に評価方法などについて取り組み教員を中心に専攻教員全員で検討する機会を設け、組織内における問題意識の共有を図った。

3年間のデータの蓄積が完了したプログラム実施後に、本専攻の教員を対象に最初のFDを実施して、評価結果のフィードバックを行ったが、CI評価システムの利用方法の周知徹底が不十分であったため、専攻教員による検証作業を十分に行うことができなかった。

苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか

5つの力を定量的に評価するために開発したCI評価システムは、幾度にも及ぶ改良や機能追加を経て本教育プログラムの最終年度にほぼ所定の仕様を満たすシステムとして完成した。そのため、教員による検証作業を行う期間が当初の計画より短くなってしまったことが主な要因と考えている。その結果、FDを行う前の準備作業を十分に行うことができなかった。

どのように対応し、そのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか

CI評価システムの開発と併行して、専攻教員に開発状況やシステムの利用法などを予め説明しておけば、同システム完成後にFDを実施する準備作業をより円滑に行うことができたと思われる。現在、評価結果の妥当性などについて各教員による検証を継続中である。

C. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策

①FD体制の整備充実

●事例4

具体的に何を実施し、何が困難であったのか

FDを目的として、学生に対する授業や教育体制に関するアンケートの実施、eラーニング教材を材料とした授業内容の検討、(主に)教員対象の講演会の開催、等を試みた。留学生に対する日本語会話教室充実など教育プログラムの充実を行い、また教員のFDに関する意識向上がある程度できた一方、どのような体系的な取り組みが効果的なのかを検証し、展開していくことが難しく、現在でも取り組み内容について模索が続いている。また例えば講演会では題材をマンネリ化させずに継続的に出していくことに難しさがあった。

苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか

要因に関して十分な分析ができていない状況ではない。多くの教員は各自の方式で授業内容の改善等を行ってきていると思われる。特別に新規なことをしなければならなかった面があり、それに拘泥したことが要因の一部であったかもしれない。

どのように対応し、そのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか

多くの教員は各自の方式で授業内容の改善等を行ってきていると思われ、それらをボトムアップ的に体系化することを初期の段階では考えるべきで、トップダウン的に新規なことを考えようとするべきではなかったかもしれない。